

## ニーズ調査結果案に対する意見対応表

|    | 意見  | 対応等について  |
|----|---|--|
| 1  | 母親の就労が今後も増加していくとすれば、それに合った支援の仕組みが必要と考える。  | 無償化の影響も含め、待機児童の解消に向けた保育の提供体制の強化に取り組みます。  |
| 2  | 定期的な教育・保育事業を利用していない理由として、「空きがない」が9.2%となっているのが気になる。  |  |
| 3  | 子育てや教育に影響すると思われる環境について、地域の教育力の低下が明確に表れている。地域の子育てへのかかわり強化が必要。  | 地域の教育力の問題や子育て中の保護者の孤立の問題については、次期計画においても対策を検討します。   |
| 4  | 日頃子どもをみてもらえる人について、10%程度が「いない」と回答しており、当該家庭を把握し支援の強化が必要。  | 子育て中の保護者の孤立や不安の解消の問題については、次期計画における課題の一つとして、対応を検討します。   |
| 5  | 妊娠中や出産、子育ての不安と悩みについて、全般的に母親の負担軽減策の強化が必要と考える。  |  |
| 6  | 地域の子育て支援事業の利用実績が13%程度となっており、今後内容等の再検討が必要。   | 子育て支援拠点の在り方については、より多くの参加を得られる運営について、改善を検討します。  |
| 7  | 地域子育て支援拠点の利用について、今後利用したいと思っている人にマッチした事業が提供できるよう、潜在的ニーズに対応した施策と後方になるようにしてほしい。  |  |
| 8  | 子育てや教育に影響すると思われる環境について、地域の教育力の低下が明確に表れている。地域の子育てへのかかわり強化が必要。  | 地域の子育てへのかかわりについては、次期計画に向けて引き続き検討するとともに、啓発を進めます。  |
| 9  | 子どもの健全な育成、安全について、地域の関与が必要と感じているが、地域との関わりを敬遠するという矛盾を感じる。啓発が必要ではないか。  |  |
| 10 | 病児保育、ファミリーサポートセンター共に、利用しなかった理由として利用料金の問題があり、無償化の対象としてどのようになるか明確にしてほしい。特にファミリーサポートセンターについては利用料金が高く、認知度は高いのに利用できていないと考える。 | 病児保育・ファミリーサポートセンター、若竹学級等については、引き続き充実と利用促進を図ります。特に若竹学級については利用の増加が見込まれており、人材確保等の対応に注力します。無償化にともなう利用料の問題については、改めて正確な情報の発信に努めます。 |
| 11 | 病児・病後児保育を利用しなかった理由の「質に不安がある」については、体制と設備への不安だと思われる。設備が整った場所を提供できるようにしていただきたい。  |  |
| 12 | 若竹学級の指導員配置・設備の充実をより図っていただきたい。   |  |
| 13 | 育児休暇の取得の推進をより図っていただきたい。働いていても、必要な時に休める会社が増えたらよいと考える。  |  |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 14 | 病児・病後児保育を利用したいと思った日数について、無回答が多かった理由がわかれば教えてほしい。       | 他の自治体の調査においても無回答が多くなっており、正確に日数を思い出せなかったり、調査票の構成上、回答を飛ばしてしまったりしたことがあると考えられます。 |
| 15 | 子供調査の「相談したいと思わない」理由について「言っても解決できないと思う」が今後減少することを期待する。 | 教育委員会とも情報を共有しながら、今後の取組を検討します。  |
| 16 | 子供を対象にした調査については、マイナス面の項目にしっかりとした対策が必要と考える。            |  |